

令和6年6月24日

令和5年度 特別の教育課程の実施状況等について

学校名	管理機関名	設置者の別
柏原市立堅上小学校	柏原市教育委員会	公立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学校名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
柏原市立堅上小学校	http://www.katakami-e.city.kashiwara.osaka.jp/img/r5_toku_katei.pdf

※必要に応じて行を追加すること。

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学校名	自己評価結果の 公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
柏原市立 堅上小学校	http://www.katakami-e.city.kashiwara.osaka.jp/img/r5_18.pdf	http://www.katakami-e.city.kashiwara.osaka.jp/img/r5_18.pdf

※必要に応じて行を追加すること。

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
- 一部、計画通り実施できていない
- ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
- 実施していない

4. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

本校は、「恵まれた自然環境を生かし、連続性を重視した一貫教育により、『生きる力』を育てる」という学校目標を掲げている。中学年から取り入れられる外国語の学習、重要視される小学校と中学校の学びの連続性、国際社会で活躍する人材育成等を鑑みると、本校の低学年における英語コミュニケーション科は大いに有意義である。特に、大人数の中では自身の思いを表現しにくい児童も、少人数というコミュニケーションを図りやすい環境のもと、生き生きと活動することができている。これは、小学校の時期のみならず、中学進学後の学習にも好影響を及ぼしている。また、こうした経験が異学年交流の中でも効果を発揮しており、どの学年ともお互いにコミュニケーションを積極的に取ろうとする場面が多く見られる。

一方で、限られた集団の中で6年間を過ごすため、学年によって人数の大小が生じていたり、さまざまな活動の場面で人間関係が固定化されたりするなど、弊害や課題も散見されることがある。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

コミュニケーションを通じた他者理解や、人間関係づくりをねらいとする本校の英語コミュニケーション科は、学校教育法第十八条の一「学校内外の社会生活の経験に基き、人間相互の関係について、正しい理解と協同、自主及び自律の精神を養うこと。」のめざすところと合致する。

5. 課題の改善のための取組の方向性

コミュニケーションを軸とする学習は、少人数であることがメリットとなる一方、多様性に欠けるデメリットがあることも否めない。学校の立地状況等に起因する通学の問題もあり、児童数が増えにくい現状がある。今後、英語コミュニケーション科や少人数での学習を中心とした、きめ細やかな学習環境や教育支援体制など、堅上小学校の特色をさらに広く周知し、市教育委員会とも連携しながら児童、保護者にとってより魅力的な取組みが必要であると考えられる。